

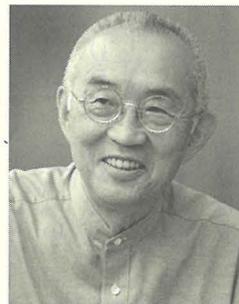
時間の約束よりも重要な 目的の達成

地域により相違する時間の感覚

東海道新幹線の列車が東京に接近すると、時々、到着が一分ほど遅延したことへの釈明が車内で放送されることがある。裏返せば正確であることを自慢していると憶測できなくもないが、外国の人間にとっては驚嘆することのようである。それは列車が正確に運行されていることにつ

いてではなく、たかだか一分という時間が釈明の対象になるということについての驚嘆である。海外では事情は相当に相違している。

数十年前のことであるが、日本の大物俳優がブラジルの日系移民の人々を訪問し、列車で奥地まで移動することがあった。現地の人々からは、列車の運行は適当であると事前



東京大学名誉教授
つきお よしお
月尾嘉男

刻に列車が駅舎に進入してきた。さすがに自分のような大物が乗車するというと、鉄道も意識して正確に運行されていると自慢したところ、丸

一日遅れで遠方から到着したという冗談のような実話がある。

エジプトの政府高官に技術協力の案件で面会するため、カイロへ出張したことがある。アラブ世界の時間は融通無碍という情報があったので、数十分間の面会に四日の余裕をみた予定で出向いたが、連日、約束の時間が延期され、結局、帰国当日になんとか面会できた。相手にしてみれば目的が達成できたから問題はないであろうという判断であるが、時間に繊細な日本の人間にはなかなか納得できない経験であった。

先住民族の時間感覚

ここ数年、世界各地の先住民族を探訪してテレビジョン番組を制作している関係で、様々な民族を訪問しているが、時間の概念が完全に相違していることを実感する。昨年、カナダの北極圏内に生活するイヌイットの狩人の狩猟に同行したときは、余裕をみて一週間強の滞在を予定したが、連日、今日は強風であるなどの理由で出発しない。延期につぐ延期で、滞在期間ぎりぎりの夕方によ

うやく出発することになった。

狩猟は零度以下の強風の海岸から海上を監視し、アザラシが海面に浮上した瞬間にライフルで狙撃するのであるが、ひたすら発見までは待機である。人々が狩猟に出発するのは食糧が必要になったときであり、帰還するのは必要とするだけの獲物が調達できたときである。今回も十分な頭数のアザラシが確保できず、狩人はしばらく滞在を延期し、我々だけが同僚の小型漁船で帰還した。時間ではなく、目的が行動を決定するのである。

目的は締切時間ではない

野生動物にも夜明けや日暮れという程度の時間感覚はあるが、一日を正確に分割した時間を発明し、それを生活の基準にしているのは人間だけの特徴である。時間は現代社会を維持している根幹ではあるが、一方で時間に拘束されるあまり、本来の目的が中途半端なまま適当に処理されている仕事も多数存在する。その結果、事後の手直しにかなりの時間や労力を消耗する場合も発生す

る。その象徴が政府の年金問題である。

二〇世紀初頭、南洋の酋長が西欧社会を見聞したときの感想を一冊にした『パラギ』という書物がある。痛烈な西欧文明批判であるが、時間についても「パラギ(白人)は細分した計画で一日を粉々にし、時間が超過すると悲痛な顔色になる。これは一種の病気かもしれない」と皮肉り、時間に強迫されている文明社会に疑問を提示している。イヌイットの狩猟を見聞すると、この疑問が納得できる。

イヌイットの生活するヌナブト準州の文化大臣に面会し、ある政策の実現時期を質問した。自分も狩人であるが、狩猟では時間ではなく、必要な獲物を確保することが目的であり、政策の実現も同様、重要なのは実現時期ではなく達成内容であるという回答であった。約束の時間までに仕事を完了することは重要ではあるが、それが究極の目的ではない。我々は世界有数の時間に厳格な国民ではあるが、時間を目的と勘違いしてはいけない。